

一般質問

ここが聞きたい

町長等の執行者に対して、町政全般の事務事業等の執行状況や政策方針などを聞くことが一般質問です。

職員の自衛隊への 体験入隊中止を！



質問者
利根川 茂 議員

本山町長は、昨年12月定例会の行政報告で、10月25日から3日間、御殿場市駒門駐屯地で職員の体験入隊を実施し、この体験入隊は3年前から行っており、今回は8名、延べ25名が参加していると報告されました。

災害時の連携強化という目的ならば理解できるが、行進訓練、体力強化と中でも「格闘訓練」まで含まれているのは理解できません。職員の研修方法としては行き過ぎです。昭和45年に、上郡町村会主催で同じ自衛隊への体験入隊が行われ、大問題になったことがありません。今、地方創生が自治体職員の使命であるならば、企画力・想像力を

養う研修方法がもっと別にあるはずですよ。

自衛隊への体験入隊について、お考えをお聞かせください。

A
永続的には
続けない

回答（町長）



自衛隊体験入隊研修

は、本町は平成26年より実施し、23年から大井町・24年開成町・25年中井町と、現在4町共催となっている。

この目的は、大災害に対し自衛隊との連携強化

と、職員が集団生活を通じての規律性・協調性を養うこと、他町職員との交流を広めることに必要と考えたからです。昭和45年に上郡町村会で同様の研修を行い大問題になったような「格闘

「松田の地酒」で活性化を！



質問者
中野 博 議員

本町には、伝統的産業である醸造蔵元があります。地酒による乾杯の習慣を広めることは、町が推進する地産地消の精神にも通じ、特産品、特産物として内外にアピールすることによって、松田町の活性化にもつながってまいります。

年間を通して行われるあらゆるイベントなどの乾杯に対して「乾杯条例」を制定している自治体も

訓練」など危険が伴うものは実施していない。一般的な職員研修は、

市町村研修センターで行っている。自衛隊体験入隊研修も、研修効果の有無を検証し、未来永劫続けていくつもりはない。

A
早期に条例
制定を

回答（町長）



増えています。町長のお考えをお伺いします。

現在松田町には、地酒生産業者として創業文政

8年（1825年）、小田原藩御用商人として小田原城に酒を納めていた酒造会社と、オリジナル地ビールを仕込んでいる酒店がある。

町内において年間を通じて行われるあらゆるイベント等の乾杯に対しては、地酒・地ビールのアルコール類に限らず、地元産品で造られたジュース飲料類も含め、町民の皆さま、町商工振興会、松田酒販店会、松田町飲食店組合の協力をいただき、早期に乾杯条例の制定を考え、来町者に対しての地元産品の周知の拡大やアピールにも繋がっていき、町の活性化を図っていききたい。

なお、実施に当たっては、個人の嗜好や意思を尊重するような配慮も必要と考えている。

